



—第16回—

気田 一馬 さん

PROFILE

十和田市出身。平成19年、下切田地区に伝わる伝統芸能・南部切田神楽（角田博会長）の舞い手となる。UDトラックスジャパン(株)に整備士として勤務する傍ら、練習に励む。現在の舞い手の中では最年少の25歳。好きな演目は、三本剣と権現舞。

伝統を引き継ぐ、若き後継者 切田神楽を全国に発信したい



力強く、勇ましく5頭の獅子頭が舞う。青森県無形文化財・南部切田神楽「権現舞」である。

南部切田神楽は、平成16年に「国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された。それを受けて、映像として後世に残す記録事業が平成21年度より始まり、平成23年度に完了した。また、近年、春祈禱として切田集落の支村の本家筋を廻り家内安全、無病息災や豊作祈願を行う「霞廻り」が復活した。

代々、下切田地区の長男に伝承されている切田神楽。しかし、時代の推移とともに後継者が不足し、伝承が危ぶまれている。

現在、舞い手の中で最年少の気田一馬さんは、20歳の頃、叔父の気田和幸さんの勧めで神楽を始めた。小さい頃から、地区のまつりなどで見てきたし、小学校の授業の一環で、基本である演目「虎の口」を演じたこともあったので、神楽を始めることに抵抗はなかった。

小学校以来、実に8年ぶりの舞い。それでも体が自然と動いた。拍子に合わせて声のリズムを刻む。故郷の拍子は、気田さんの体に自然と染み付いていた。

初めて演じた権現舞。舞いを見た祖母が泣いていた。

「いがつたよ、いがつたよ」

地区の人が喜んでくれた。神楽を続けようと、そう心に決めた。

毎回、神楽を披露する日が近づくと練習が行われる。「目線をしっかりと」「目力を強く」「大きく踊れ」など師匠たちからの言葉を聞き、練習に励む。

地区の人が一番の切田神楽ファンであり、期待は大きく、舞い手としてのプレッシャーを感じる。練習は自宅でも行っているという。

気田さんの目指す舞い手は、叔父の和幸さん。「踊ると、大きくキレがあつて強弱がうまい。自然と彼の舞いに惹きつけられるんです。彼のように見る人の心に何かを伝えることができる舞い手になりたいです」と、話す。

「いずれは、切田神楽を全国に発信して、伝統芸能の良さを広く伝えたいです」と、力を込めて語る。「そのためにも、後継者探しを課題ですね。人数を増やして、下切田の伝統を引き継いでいきたいです。がんばります」地域の伝統は、若き舞い手にしっかりと受け継がれている。

